

函館市医療・介護連携推進協議会 第6回会議 会議録（要旨）

1 日 時

平成28年10月20日（木）19:00～19:55

2 場 所

函館市総合保健センター2F 健康教育室

3 出欠状況

顧問全員出席，委員は高橋委員，中村委員の2名欠席

※事務局出席職員は，保健福祉部：大泉次長，介護保険課）深草課長，小棚木課長，
中釜主査，山下主任主事，高齢福祉課）佐藤課長

保健所：山田所長，佐藤次長，京野主査，前田主任主事

4 議 事

(1) 部会・分科会の進捗状況について

ア 退院支援分科会（連携ルール作業部会）

イ 情報共有ツール作業部会

ウ 多職種連携研修作業部会

エ 急変時対応分科会（連携ルール作業部会）

(2) 函館市医療・介護連携支援センターについて

(3) 「在宅医療・介護連携関係機関リスト」のマップ化について

5 会議の内容

佐藤保健所次長

ただ今から，函館市医療・介護連携推進協議会の第6回会議を開催いたします。前回の会議録は文書により事前に内容の確認を照会させていただき，7月22日に会議録を確定し，ホームページ上で公開をしております。前回の会議でも確認しておりますが，この会議は原則公開により行いますので，ご了承願います。

なお，本日は北海道看護協会道南南支部の高橋委員と函館市居宅介護支援事業所連絡協議会の中村委員が所用により欠席をしております。

それでは，本日の資料を確認させていただきます。

机上に名簿と座席表のほか，資料7のマップイメージを当日配付資料ということで，お配りしています。また，事前に会議次第と資料1の部会・分科会の進捗状況についてから，資料6の研修案参考まで，本日お持ちでない方はいらっしゃいますか。本日の会議は午後9時頃までを予定しておりますので，ご協力よろしくお願いたします。それでは，藤田部長，議事進行をお願いいたします。

藤田座長

皆様、改めておぼんでございます。今年度2回目の協議会となります。皆様どうぞよろしくお願ひします。それでは早速、次第に従ひまして議事を進めます。(1)「部会・分科会の進捗状況について」事務局から説明願ひます。

小棚木医療・介護連携担当課長

部会・分科会の進捗状況の報告については、各部会・分科会長から報告をお願ひします。まずは連携ルール作業部会の退院支援分科会の高柳分科会長からお願ひします。

高柳分科会長

<資料1「ア 退院支援分科会（連携ルール作業部会）」の概要説明（省略）>

亀谷部会長

<資料1「イ 情報共有ツール作業部会」の概要説明（省略）>

酒本部会長

<資料1「ウ 多職種連携研修作業部会」の概要説明（省略）>

小棚木医療・介護連携担当課長

続きまして、連携ルール作業部会の急変時対応分科会の進捗状況ですが、現在のところ事務局としては、分科会を開催できるまでの準備を整えられていないところです。このことから、進捗状況の報告の資料については、本日も用意しておりませんが、この間の取り組みにつきまして、恩村分科会長から説明をお願ひします。

恩村分科会長

急変時対応分科会ですけれども、今、紹介もありましたように、現状ではまだ1回も開けていないというところでもあります。

今日は、そのことにつきまして、経過と今後の予定を報告させていただきます。

まず、私ども医師会としましては、急変時対応のお話し合いを介護関係者と進めていくにあたり、事前に一定の仕組み作りを視野に入れて検討していく必要があると考えましたことから、分科会に優先させて医療側での話し合いをしているところでもあります。

現在、医師会内部での協議や、医療機関のご意見などを聴取し、検討を進めている状況にあり、各々の立場から多くの意見や要望が出ております。

これまでの協議の中では、急変時対応における医療・介護連携の課題として、在宅や介護施設などの患者・利用者を救急医療機関に送る側から見て、搬送・医療機関の受け入れがスムーズに行かない場合があるという問題について意見交換しており、これを解決する仕組み作りは必要と考えております。

具体的には、急変時の患者さんの受け入れにあたって、既存の一次・二次・三次の救急医療体制との関わり、新たに設置される医療・介護連携支援センターの役割などを踏まえ、急変時に既存の救急医療体制を生かしていくのか、それとも新たに、いわゆる1.5次的な患

者さんを受け入れる体制を構築すべきか等の件につきまして、協議してまいりました。

いずれにしても、仕組み作りに関しましては、既存の救急医療体制を、医療介護連携における急変時にも適用できるように、少し変えていきたいという医療側の一定の方向性は見えてきておりますが、もう少しその内容を詰める作業を進めさせていただき、来月、11月には分科会を開催できるようにしてまいりたいと考えております。

なお、医療側の分科会メンバーは、医療機関の考え、立場をご理解いただくために、重複しているところがありますけれども、二次救急医療機関11医療機関、地域包括ケア病棟・病床を有する病院5医療機関、それから救急告示病院3医療機関、合わせて19医療機関の代表者の方の参加が必要であると考えております。以上です。

小棚木医療・介護連携担当課長

恩村分科会長ありがとうございます。議事の(1)に関しまして、以上報告でございます。

藤田座長

各部会、分科会長から、それぞれこれまでの経過につきまして説明がございました。

ただいまの説明につきまして、皆さんからご質問等ございましたら、よろしく願いいたします。

概ね計画通りといたしますか、そういった作業手順で進んでいると思われま。

ただ急変時対応につきましては、事前の整理といたしますか、そういったものが非常に重要であるということから、慎重に進めていただいているというように思っておりますけれども、これにつきまして、来月、分科会を開催できるのではないかという風にとらまえておまして、それについてはまた期待をしたいという風に思っております。

皆様の方から、何か、ご質問ございましたらどうぞお願いいたします。

特に無いようであれば、それぞれの到達目標に向けまして、各部会・分科会で作業を進めていただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、そうした形でよろしくお願いいたします。

次の議事に移ります。(2)「函館市医療・介護連携支援センターについて」に関しまして、事務局から説明をお願いします。

小棚木医療・介護連携担当課長

<資料2「函館市医療・介護連携支援センターについて」の概要説明(省略)>

伊藤事務部長

医師会病院事務部長の伊藤でございます。新たに、支援センターの準備室、開設に当たりまして、4名の配置ができましたので、ご紹介させていただければと思います。

まず、私の隣から、医療ソーシャルワーカーの高柳靖でございます。

その隣が、同じく医療ソーシャルワーカーでございます、佐藤静です。

その隣が、看護師の長谷川奈生子でございます。

その隣が、事務の川村芙美子でございます。

ソーシャルワーカーならびに看護師の3名につきましては、それぞれ全員ケアマネの資格

を持たれております。今回、採用させていただきました2人を含め、非常に有能な職員の配置ができたと自負しておりますので、今後また色々、皆様方にはご指導、ならびにご鞭撻をいただければと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

藤田座長

ただ今、支援センターの体制ということで、職員のご紹介もございました。

そして、来年4月の稼働に向けた準備行為、どのような準備行為をしていただくのか、という説明がございました。

ただ今の説明に対しまして、皆様から何かご質問をいただければと思ひます。

どなたか、ございますでしょうか。

この医療・介護連携支援センターにつきましては、昨年1年をかけて、皆様から内容等につきまして、色々のご議論をいただいております。

いよいよですね、それが10月からの具体的な準備に対して、着手をしていただくわけですが、そういった意味では、大体、皆様のイメージどおりの内容で、動き出すのかなと思っております。

もうちょっと具体的にこういうところを聞きたいとか、そういったご質問ございましたらどうぞ。

岩井委員

歯科医師会の岩井です。いよいよ、この準備がスタートということですが、10月1日から職員配置ということで、まだ始まってそれこそ3週間くらい。これからという感じなのかなと思ひますが、アバウトな質問ですが、スタートしてみて実際働いている準備をされている職員の方、どうなんでしょうか、どういう課題を持ってとか、大変なところとか、問題点とか、始まったばかりですが、いかがでしょうか。

藤田座長

これは職員の方に、もしありましたら。どうぞお願ひいたします。

医療・介護連携支援センター高柳氏

岩井先生ありがとうございます。これまで事務局サイドで、各部会・分科会の作業を大きな部分をお願いしてきたところを、10月1日から4名のスタッフが一緒にその作業をさせていただいていると、その作業の内容がですね、ほぼ同時進行で行われておりまして、函館市のルールブックの作成に当たってもそうですし、あと、来年の2月に行われる研修会への準備を含めたところもそうですし、医療・介護連携のマップ作りの作業に関しましても、予想以上に膨大な量といひますか、業務量がございましたので、日々、ひとつひとつを奔走しながらやっているというのが現状でございます。

藤田座長

ありがとうございます。岩井委員よろしいでしょうか。結構大変な作業だと。

岩井委員

大変だと思います。頑張ってください。

藤田座長

励ましの言葉をいただきましたけれども。他に質問等ございませんでしょうか。齋藤委員。

齋藤委員

道南老協の齋藤です。この資料（資料7）を見ながら気が付いたんですけども、資料の1枚目ですね、下の方に「函館市医療・介護連携支援センターとは」と書いてありますが、ここを見てもみると、「支援センターに相談してもいいかな」という感じの方が、どちらかというと医療・介護関係者とか、高齢者という風には書かれてはいるんですけど、実際のところどうなんですかね、例えば、若い方、お子さんが夜中に熱を出したとか、まあ、色々考えられると思うんですけども、何かこう括りというものはあるんですかね。

藤田座長

事務局どうぞ。

小棚木医療・介護連携担当課長

こちらの事業、介護保険事業計画の事業でございますので、高齢者の方を対象とした事業でございます。そこまで、年齢の幅を広げるといったことではなく進めていきます。

齋藤委員

市民啓発とあったものですから、高齢者向けの市民啓発とは書いてあったのですが、その方たちが、例えば、年齢で該当してしまうのか、しまわないのか、ということは多分市民の方は分からないと思うんです。

高齢者大学に行っても、介護保険の対象の方とか、対象外の方だったりとか、そこに来ている例えば50代後半の方だったりとか、色々な方がいると思うんですけど、きちっと、ここからの年齢の方は「相談してもいいですよ」とか、ここからは「ちょっと申し訳ありません」とか、何か方法とかって、あるんでしょうか。

小棚木医療・介護連携担当課長

高齢者大学等に集まれる方が、必ずしも65歳以上の方が集まれるわけでは無くて、もちろん、現在、親御さんを介護している方とかがいらっしゃるかと思います。

そういった高齢者層、医療と介護の両方を必要とする方が、相談をしたいと思った時の窓口として置いてございます。

周知啓発の際にもですね、そういった方々に対応するための窓口として周知をしていこうと思っておりますので、周知啓発する相手は高齢者に限った話では無いですけども、支援する対象としては高齢者の方を射程にしております。以上でございます。

齋藤委員

ありがとうございます。

藤田座長

ありがとうございます。他にご質問はございますでしょうか。

それでは、医療・介護連携支援センターにつきましては、ご報告・ご質問をいただきましたけれども、今後、来年の4月の稼働開始に向けまして、準備を進めていただきたいと思いますと考えております。

では、議事の(2)につきましては以上とさせていただきます。

次の議事(3)「在宅医療・介護連携関係機関リスト」のマップ化について、事務局から説明をお願いします。

小棚木医療・介護連携担当課長

<資料3「在宅医療・介護連携関係機関リスト」のマップ化について概要説明(省略)>

医療・介護連携支援センター高柳氏

函館市医療・介護連携支援センター準備室の高柳でございます。マップ化についてでございますが、公開時期につきましては、来年、平成29年の1月中を予定しております。

お手元のカラー印刷の資料7がマップの試作品の資料でございます。現在、このマップの作成に向けまして、画面表示や操作など、システムの細部に係る協議を進めているほか、現在、公開しておりますリストの医療機関等の情報が、昨年8月1日現在のもので古くなっておりますので各機関に再度、調査・照会を行い、最新の情報に更新するとともに、その情報をマップに反映させるための作業が必要であり、その作業を完了させたいと、最新の情報でマップとして公開したいと考えております。

本日は、このシステム構築の業務をお願いしております、ハコレコドットコム株式会社の千葉さんと齋藤さんにお越しいただいておりますので、画面表示や操作方法などに関しまして、資料7と実際の画面をお示しして、ご説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

ハコレコドットコム株式会社千葉氏

ただ今ご紹介にあずかりましたハコレコドットコム株式会社の千葉と申します。

本日は、今、医師会様と製作しているマップのシステムについて、簡単にご説明させていただきます。

まず、マップですけれども、お手元の資料1枚目に、こちらは医療・介護支援センターのホームページの一メニューとしてマップが用意されている形になります。

実際に利用者の方は、最初にこちらの支援センターのホームページからマップの機能にアクセスする形になっております。

支援センターのホームページは、マップの機能の他に、センターからのお知らせであるとか、あとはセンターがどういったものなのかを説明するようなコンテンツ、連携支援を受けるうえでのQ&A的なものをコンテンツとして載せていく予定です。

実際のマップの機能については、こちらのトップのページの中央にある「どの施設をお探ししますか?」というところから、検索に入るようなイメージです。

大きく、在宅医療、入院医療、薬局、介護が訪問・通所と施設・居住という5つのカテゴリで分けて、最初にこちらの5つのカテゴリを選ぶところからスタートする形になっています。

実際この画面の前に、もうひとつ画面があるんですけども、函館市を俯瞰した地図から、実際に検索する場所を指定する画面があって、実際にその指定した場所と、今、在宅医療機関でいうと、対応している診療科を選択した状態の検索結果が、こちらの画面になります。

それがお手持ちの資料の2枚目になります。こちらが指定した場所について、この右側が地図で、その施設のところにピンが立っていて、左側に検索結果の施設がリストとして表示される形となっております。

リストには訪問と往診、どちらを行っているのかというのがこのようなアイコンで表示されるという形となっております。

また、「リストから詳細を見る」をクリックすると、その画面は用意していませんけれども、実際の施設の詳細といった、何のサービスに対応しているかといった詳細を見る画面に遷移する形になります。

今、ご説明させていただいた画面というのは、あくまでもこれから開発するところの仮の画面であって、これから関係各所様からご意見をいただきながら、細かい仕様を詰めていく予定でございます。

今こちらが実際に検索をした画面なんですけれども、今回のシステムの特徴としまして、通常、1回検索をして、場所がちょっと違ったりした場合、もう一度条件を指定する画面に戻って、そしてまた条件を指定して検索するという必要があるんですけども、今回のシステムでは、こちらの地図を動かすと、それに応じて検索結果がリアルタイムに変わるような形になっています。

あと地図を引いていくと、こちらに選択した地図に応じて検索結果が出るような形となっております。

いちいち検索条件を指定する、それからまた検索結果を見る、ということをやらなくても、地図を移動させたり、こちらの診療科の条件を指定したりすると、このようにリアルタイムでリストが出る、これが技術的な大きな特徴となっております。

こちらに関しては、あくまでもデモ版で、これから細かいところの仕様を詰めていく予定です。私からの説明は以上でございます。

医療・介護連携支援センター高柳氏

千葉さんありがとうございました。まだまだ試作段階でございますので、この先協議を重ねまして、より良いものを作成できるようにと考えております。以上でございます。

小棚木医療・介護連携担当課長

高柳さんありがとうございました。以上が資料7の説明になります。論点としましては、このマップイメージに関する意見をいただければと思います。

藤田座長

ご意見等を伺いたいと思います。どなたかございますでしょうか。

恩村委員

多分、我々が書いた情報を元にこういうのが出来上がったかと思うんですけども、内容に関しては、適宜変更は可能なんでしょうか。例えば、あそこに「往診」だとか「訪問」だとかが付いているのが、ちょっと、自分の考えたことと違ったとか、あるいは、ある時期からこういうふうにしたいという時には、どういうふうにすれば変えていただけるのか。

ハコレコドットコム株式会社千葉氏

今はセンター様の方でシステム上から、情報を全部更新できるような形で考えておりますので、一旦センターの方で情報をこういうふうに変えたいだとか、ここの画面では無いんですけども、診療時間とかを全部表示させる予定なので、そういったものを適宜、更新しながら運用していこうと想定しています。

恩村委員

ということは、それがすべての医療機関が分かっているなければならないということになりますよね、センターにまず変わったら連絡をすると。

ハコレコドットコム株式会社千葉氏

はい、今の運用としてはそういう形を考えております。

恩村委員

ありがとうございます。

藤田座長

他に、亀谷委員。

亀谷委員

何点かお聞きしたかったんですけども、ひとつはスマートフォンで対応できる画面を作るかどうか1点、もう1点は印刷ですね、この画面を見てですね、ネット上とかパソコンで見るのは良いですけども、例えばこれを印刷して使いたいというときに、PDFが起動してプリントアウトできるような様式に変わるのか、というところが2点目、3点目としてはトップページに「お問い合わせ」というところがあるんですけども、ここをクリックすると、例えばアウトLOOKが起動してメールが送れるようになって、メールのやり取りでディスカッションができるようになることが出来るのかどうか、その3点对応できるのかどうかお聞かせいただければと思います。

ハコレコドットコム株式会社千葉氏

まず1点目ですが、今日PCの画面で完全に説明をしてしまったんですけども、今回は

スマートフォン用に全くPCとは異なるスマートフォン用に最適化された画面を用意する予定でございます。

スマートフォンからアクセスした場合は、こういったものではなくて、この画面でいうと、左側と右側を切り替えるような画面になることを想定しております。スマートフォンからのアクセスは非常に多いと思います。スマートフォンに最適化されたものを用意する予定です。

印刷ですけれども、実際に印刷することが多いと思われる画面は、こちらから詳細を見るとして、病院の詳細を表示させる画面だと思えますけれども、こちらの画面については、ブラウザの印刷機能から印刷すると、A4の用紙に印刷されるようなサイズで画面を作りこむ想定です。

「お問い合わせ」に関しては、今、センター様と検討しているところなんですけれども、メールアドレスをそのまま載せてしまうと、スパムメールというか、そういったセキュリティの問題もありますので、電話番号だけの問い合わせにするのか、もしくは、メールの問い合わせを可能にするかというのは、今センター様と協議しているところでございます。以上になります。

亀谷委員

すいません。もうひとつ。印刷のところなんですけれども、例えば患者さんだとかご家族が使うのであれば、先程おっしゃった詳細画面で良いと思うんですけれども、我々医療機関側の相談する側が、情報提供する側が使うとすると、例えば「内科」で出した一覧をプリントアウトして患者さんに選択していただくとか、そういうシチュエーションが出てくるので、できれば、この「内科」で検索された一覧とかも印刷ができれば、ケアマネさんとか、各病院のソーシャルワーカーさんとか、そういうところも非常に使い勝手が良いのかなと、ちょっと考えていました。

ハコレコドットコム株式会社千葉氏

かしこまりました。そこはそれほど技術的には難しくないと思いますので、記事から印刷するということを考慮して作りこみたいと思います。ありがとうございます。

亀谷委員

よろしく申し上げます。

藤田座長

他にご質問、ご意見等あれば。せっかくですから、使い勝手が良いようにしていただくのが目的ですので、ご要望等ございましたらお願いします。

齋藤委員

さきほどスマートフォン用のページを用意するということだったんですけれども、ホームページ上にスマートフォンのページを作るのか、それともアプリを作るのか、どちらでしょうか。

ハコレコドットコム株式会社千葉氏

今回は、アプリという形では無くて、ブラウザからのアクセスを想定しています。理由としては、アプリですとどうしてもアイチューンであるとか、グーグルプレイからアプリをダウンロードするという手間がかかってしまうので、すぐ情報にアクセスしたい人に対して、サービスとして少し不都合なところがあるのかなと思って、また、PCと、スマートフォンには最適化されているんですけども、PCのブラウザから見た時と、出来るだけ違和感がない操作体系にしたいと考えているので、スマートフォンに関してもブラウザからアクセスすることを想定しております。

藤田座長

他にございますか。

松野委員

まず一つ目が「詳細」というところがあるんですけども、こういった情報を載せるのかということをお聞きしたかったのと、あと、今は医療機関の方なんですけれども、これから、介護保険事業とか、そちらのほうの情報についてはどのように進めていくのかということも、もし決まっていることがあれば教えていただければと思います。

小棚木医療・介護連携担当課長

こちらのマップのツールに関しましては、在宅医療と介護連携に特化した部分で、もともとのベースとなる情報というのは、リストとして在宅医療機関の機能が、「こういうものがございます」といったものをペーパーで一覧表になっているとなかなか見づらくて、知りづらいというのがあって、こういったマップに見えていると、わかりやすい、アクセスしやすいというところから、このツールは始まっておりまして、介護事業所等々の詳細情報につきましては、既に私ども介護保険課のホームページにですね、かなり詳細な情報提供できる内容のものが公開されておりますので、こちらの方はですね、今の想定ですけども、介護事業所の住所ですとか場所ですとか、それにこういった種類の介護事業所なのか、居宅なのか訪問なのかとか、そういったことが端的にわかるような、そのレベルでの情報を掲載するというところで、もっと詳しく知りたい方は、別の専門のツールを見ていただいてというようなことで想定しておりました。

藤田座長

他にございますでしょうか。

岩井委員

事務局に質問なんですけど、歯科はご存じのとおり道からの委託を受けて北海道歯科医師会で在宅歯科医療連携室を今やっているところなんですけど、どうしても歯科の場合は、歯科医師が一人でやっているというところがほとんどで、昼間はほぼ病院で仕事をしている。実際に往診に行く時間というのは、その中で空いた時間とか、昼休みとかを利用してやっているということがあって、例えばマップとかを作った場合には、まだ、マンパワー自体が足りな

いということがありまして、あえてマップも、この会議にも出していない状況なんですけど、歯科はとりあえず、今はこの状況でかまわないということによろしいでしょうか。

歯科のマップを特に出さずに、もし、必要があれば、在宅歯科医療連携室の方に直接つないでもらって、そこから、だれか行ける歯科医師を派遣するなりという、今の状況ですね、それが多分まだ、1年2年は続くと思うんですけども、それについてはどういう風に思っておられるのか、お聞きしたいです。

小棚木医療・介護連携担当課長

その通りでございます、在宅歯科医療連携室さんの方は、道の事業として取り組まれている、私どもは市の事業としてやってるということで、例えば対象となるエリアも函館市だけではないところも射程に置きながら在宅歯科医療をされているところを紹介するといった取り組みをされているかと思えます。この私どもの事業につきましては、3か年度のプランで行っておりまして、平成29年度まではこういったスキームでですね、やらせていただいているところでございます。

平成30年度以降に、こういった事業スキームになるのかというのは、まだちょっと見通せないところでありますけれども、その見通しが立った時点で、例えば、共同していける部分があるのか、そういったことも含めて、見つめていければなという風に思っております。

岩井委員

はい、ありがとうございます。私たちの方も、実はこの事業いつまで続けられるか、あるいはどういう形で何年後かに変わっていくかというのがちょっとわからないので、とりあえずはこの形でやらせてもらいたいというふうに考えております。

もし変わるときには、その都度ご相談させていただきますので、よろしく願いいたします。

藤田座長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

よろしいですか。では、特に無いようであれば、ただ今皆様の方から色々ご意見をいただきましたので、そういったご意見を元にですね、今後、関係団体様にも改めてご相談させていただきながら、最終的な内容の確定を図ってまいりたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

その時はまた、よろしく願いをいたします。それでは、予定よりも大分早く進んでいるんですけども、次回の協議会について、事務局から説明をお願いします。

小棚木医療・介護連携担当課長

次回の協議会は、部会、分科会の進捗状況を見ながら2月を目処に日程を各顧問、委員にお伺いし開催しようと考えておりますので、ご了承いただければと思います。

藤田座長

今回は2月を目処にということですので、日程調整の方をよろしく願いいたします。最

後,その他でございますけれども,全体を通して,皆様の方から何かございますでしょうか。
よろしいですか。それでは,全ての議事が終了いたしました。ご協力いただきましてありがとうございます。それでは進行を事務局にお返ししたいと思います。

佐藤保健所次長

藤田保健福祉部長,どうもありがとうございました。以上を持ちまして第6回会議を終了いたします。皆様お疲れ様でした。